

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども達が喜んで通う学校 教育環境が整っている学校 保護者や地域から信頼される学校 ○元気で明るい子ども 最後までがんばる子ども 社会に参加する子ども ○子どもと共にある教師 専門的的力量を持った教師 保護者や社会の信頼に応える教師 		<ul style="list-style-type: none"> ○体育, 休み時間等における安全な活動場所の確保 ○保護者, 放課後デイサービス等送迎車の交通安全と児童生徒の安全確保 ○工事中の安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動場の使用割を作成し, 見守り担当も含めて計画的に活用する。 ○送迎の際の通行を片側通行として, 児童生徒および車両の安全を確保する。 ○工事業者と連携し, 管理職や専科職員での見守りを徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ○小・中・高校との交流及び共同学習の充実 		<ul style="list-style-type: none"> ○校務の効率化 ○校外研修の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部では, 作業課が近隣の高校の名刺作成や, 食堂の窓清掃に取り組みなど, キャリア教育の視点から交流が進展している。今後, 小・中学部でも現状以上に交流できる機会が増えるように担当者間で検討していく。 ○校務支援システムの運用による校務の効率化と, 情報管理を徹底する。 ○県外研修や他校の研究授業への参加を促進し, 教育活動や学校運営にフィードバックしていく。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
○あいさつ ・自分から「あいさつ」できる児童生徒の育成	入学式, 始業式等の生活指導であいさつの目的や効果, 方法について校長や生活指導担当から具体的に提示する。 児童生徒会を中心に「AKB(あいさつをきちんとばっちりしよう)運動」を実施する。 学期はじめ等に強化週間を設定し, 登下校時や学級指導時にあいさつ名人を増やしていく。	・登校時や下校時には, 多くの職員が児童生徒玄関や送迎車駐車場に立ち, 気持ちの良い挨拶の見本を示すことで, 児童生徒が挨拶を学ぶいい機会になっている。 ・児童生徒会が曜日を決めて「あいさつ運動」に取り組んだことで, 挨拶を返すようになった児童生徒も多くなった。 ・各学級で挨拶について目標を設定するなど, 児童生徒の個々の実態に応じて支援を行った。これらの取り組みにより, 笑顔や態度, 元気な声で挨拶ができる児童生徒も多くなった。	
○交流・共同学習の推進 ・交流活動の充実(近隣校・地域への啓発, 地域への活動など)	「ふくせき制度」に基づく居住地校入学式や交流を呼びかけ, 行事等への積極的参加を図る。 壱岐小, 西陵高校等の近隣校交流の内容を吟味し, 発展実施する。本校からの訪問についても検討する。 高等部の活動場所を地域に広げ, 本校の取り組みについての理解を図るとともに生徒の社会参加意識を高める。	・ふくせきのある学校の入学式での名前の紹介や案内が来た学校の行事への参加など昨年度より多く交流の機会をもつことができた。 ・昨年度と同様に小学部, 中学部, 高等部それぞれの学部で季節の行事や授業での交流など, 多くの機会に近隣校交流を行えた。本校からの訪問については, 双方の学校の担当者で今後内容を検討して進めていく。 ・高等部の作業課が, 公民館のカフェにボランティアにで関わったり, 福岡西陵高校職員の名刺作成や食堂の窓清掃に取り組んだりするなど, 地域への啓発活動ができると共に, 生徒の社会参加の意識が高まった。	
○専門性の向上 ・授業づくり ・校内外研修の充実 ・センター的機能の充実 ○校舎内外の整備と美化	自分で考えて意欲的・自主的に行動する児童生徒を育成する授業について実践研究を行う。 関係機関等と連携してケース会議を活性化し, 校内外のケースに対応する。 児童生徒が美化活動に意欲的に取り組めるように支援方法を工夫する。 校舎建設工事は教育委員会や保護者と連携して児童生徒の安全を確保する。	・「主体的に学ぶ学習指導の在り方～教材教具の工夫, 学習形態の工夫を通して～」を主題として, 各学部で研究授業を中心として研修を進めた。児童生徒が主体的に学べる学習指導方法の確立を目指して, 今後は, 将来の生活とつながりがわかる単元づくりや年間計画について研修を深めていく。 ・自立支援専科がセンター的機能として, 小中学校関係の相談や支援, ケース会議に, のべ160回関わることができた。 ・校舎の増築工事やグラウンド整備については, 教育委員会や工事業者と連携し児童生徒の安全を確保して進められた。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の健康, 安全の確保についての取り組みで, 課題と成果が明確になっていてよい。 ○学校ではできていても, 就労した先で周りの人と上手く関われなくなることがある。支援が必要なことが自分で言えるこどもの育成が課題である。 ○学校の中でしか学べないことがあるので, 保護者が放課後等デイサービスに頼りすぎることなく, 危機感を持って学校と連携してこどもの育成に取り組んでほしい。 ○幼児期の遊びや生活を通して, 人との関係や基本的生活習慣を育てることで, 就学だけでなく, 将来の就労にまでつながっていくものだった。 ○高等部の生徒に月1回の公民館のカフェオープンにボランティアで来てもらうことで, 多くの地域の人たちと関わることができている。今後は更に会話が多くできるように, 互いに活動に工夫をしていけるとよい。 			